

【晩霜害に対する技術対策】

野菜・花き

1 露地

- (1) 低温、凍霜害の発生が予想される場合は、寒冷紗や不織布、被覆資材等で被覆する。
- (2) 被覆を行った場合、翌朝除去が遅れないようにし、湿度や光環境の適正化に努める。
- (3) 被害を受けた場合、病害の発生が懸念されるので、薬剤散布を徹底するとともに、追肥やかん水等により草勢の回復を図る。

2 施設

早めに施設の側窓を閉めて室温を確保する。また、換気に注意し室温の適正化に努める。

果樹

- (1) 冷気の停滞は霜害の発生を助長するので、防風樹等で囲まれ冷気が停滞するような場所は裾部を刈り込む。また、土壌が乾燥している場合には散水を行う。散水は、日中の温度が高い時間帯に行い、蓄熱させる。
- (2) 被害を受けた場合、新梢はその後の生育をみて、枯死した部分の剪除を行う。また、開花中の場合、被害に遭わなかった花の結果率を高めるよう人工授粉を丁寧に行う。被害発生後は、経過観察をこまめに行い、病害の発生が認められた場合には初期防除に努める。

茶

- (1) 事前に防霜ファンの作動点検を行い、不良箇所は確実に整備しておく。
- (2) 防霜ファンがなく霜害を受けた茶園では、整枝をしない。霜害を受けるとダニが発生しやすくなるので防除を徹底する。